



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第39号 (2013年3月31日)

「チェロが好き!」の3日間 日本チェロ協会主催 第3回チェロの日 開催



チェロの日の様子

2013年2月9日(土)～11日(月・祝)、日本チェロ協会は第3回チェロの日を開催しました。チェロの日では、日本チェロ協会の会員であるチェリストが出演する『コンサート』(9日、11日)、会員から募集した約80名が参加する『チェリストの集い』、小・中学生を対象とした『ジュニア・チェロ・キャンプ』が行われました。『ジュニア・チェロ・キャンプ』はチェロ協会設立の趣旨の一つでもある「次世代を担う若いチェリストの育成」をさらに推進するため、今回初めての試みとなりました。以下、3日間の様子を日を追ってご報告いたします。

2月9日(土) 1日目

チェリストの集い

<10:00～12:10>

チェロ・オーケストラ リハーサル
(サントリーホール・ブルーローズ)

初日、チェリストの集い参加者はサントリーホール・ブルーローズで3日目に演奏するチェロ・オーケストラ(通称チェロ・オケ)のリハーサルを山本祐ノ介先生ご指導のもと、行いました。チェロの日を迎えるまで合計10回もの自主練習を重ねて臨んだリハーサルでしたが、参加者全員が揃う最初の合わせとなり、コンサートに向けて演奏の意欲も徐々に高まる様子が見られました。

<13:45～16:45> ラーニングセッション

リハーサルを終え休憩を挟んだのち、会場をANAホテル「リブラ」に移しラーニングセッションを始めました。第1部では、日本ヴァイオリン社長中澤宗幸さんにお越し頂き、『楽器製作者から見たチェロ』についてお話し頂きました。参加者からはチェリストにとって大変ためになり興味深い話であったとの感想を頂きました。第2部では、チェロ協会評議委員の堤剛先生、堀了介先生、倉田澄子先生による座談会が行われました。チェロという楽器やその名曲の素晴らしさを中心に、ここでしか聞けない逸話・裏話を楽しく聞かせて頂きました。



第1部の様子



第2部の様子

ジュニア・チェロ・キャンプ

<10:00～17:00>

アカデミー (楽屋及びリハーサル室)

今回初めての開催となったのがジュニア・チェロ・キャンプ。全国から集まったチェロを学ぶ小・中学生を対象

としたアカデミーを開講しました。参加者22名は「ソロ演奏コース」、「合奏コース」、「ビギナーズ合奏コース」の3つに分かれ、指導を受けました。指導者には、宮田豊先生（栃木チェロ協会会長・才能教育研究会）、寺田義彦先生（国際チェロアンサンブル協会副理事長・才能教育研究会）をお迎えし、中島顕先生、堀了介先生、山崎伸子先生、倉田澄子先生、河野文昭先生、（日本チェロ協会評議委員）らにご指導頂きました。ピアノ伴奏は鳥羽亜矢子先生のご協力を頂きました。



合奏演奏の様子

チェロ・ソロ・コンサート

<18:00開演>

ソロ・コンサートはサントリーホール・ブルーローズ



横坂源さん

に於いて、若手チェロ奏者の中でも特に活躍が著しい横坂源さんと上森祥平さん、そしてソリストとして長年活躍されている上村昇さんと林裕さんの4名にご出演頂きました。



上森祥平さん



上村昇さん



林裕さん ©畑勝浩



鈴木華重子さん

2月10日（日）2日目

チェリストの集い

<9:30~12:30>

チェロ・オーケストラ パート 練習

2日目、参加者は各パートに分かれヴィブラ・ロボスの難しい部分を中心に45分ずつのパート練習を行いました。

ジュニア・チェロ・キャンプ 発表会リハーサル

キャンプ参加者はブルーローズに集合し、発表会のリハーサルを行いました。楽器の準備はもちろんのこと、譜面台や椅子などをホール裏方の大人と混じって自分たちの手で準備するところから参加して頂きました。楽器を置く場所や出入りの順番、演奏場所に至るまで短い時間で覚えることは沢山ありました。初めてのことでどうしたら良いのか迷いのある参加者もいましたが、演奏会が始まるまでの過程を各々肌で感じ取っている様子でした。リハーサルを終えた後は、参加者全員でお昼を食べて発表会に挑みます。控室では緊張しているソロコースの参加者もいれば、発表会までの時間を待ちきれないという様子の参加者もいました。



リハーサルの様子

<13:00開演>

発表会

発表会は、ソロコース（8名）、ビギナーズ合奏コース（7名）、合奏コース（7名）、3コースの全体合奏という順番で演奏して頂きました。また、日本学生音楽コンクールで入賞された鎌田茉莉子さん、黒川実咲さん（大学の部）濱田遥さん、平田幸恵さん（高校の部）をお招きし、ソロコースの演奏の後にサプライズでご披露頂きました。

緊張感に満ちたソロコースの演奏、続いて晴れやかに楽しげに演奏する合奏コースの演奏を終え、最後に表彰の時間となりました。日本チェロ協会評議委員による審査のもと、「チェロ協会賞」には北村陽さん（兵庫・小2）、「チェロの日賞」には西田翔さん（大分・小2）、佐藤晴真さん（愛知・中3）、聴衆者によるアンケートのもと、「チェロ・フレンズ賞」には鈴木あさひさん（愛知・中3）が選ばれました。

—全国各地からご参加頂きました—

1都9県（栃木、福島、長野、岩手、神奈川、兵庫、愛知、大分、福井）

小1（1名）、小2（2名）、小3（4名）、小4（1名）、小5（1名）、小6（2名）／中2（8名）、中3（3名）



平田幸恵さん



濱田遥さん



黒川実咲さん



鎌田茉莉子さん

<15:45開会> 懇親会

発表会を終え、参加者や発表会を聴きに來て下さった皆様で懇親会を行いました。開会に際して堤剛会長は、『世代を超えてチェリストが集い、チェロの輪が少しずつ大きく広がっていることを実感しています。将来、アジア、ワールドというように国際的なチェロの輪に広がっていくことを願っています』とのご挨拶がありました。懇親会では、サプライズで演奏して下さいました皆さんからの感想、翌日本番を控えているチェロ・オーケストラ指揮者の山本祐ノ介さんから演奏にける意気込み、ジュニア・チェロ・キャンプをご指導頂いた諸先生方からの感想などを頂き、和やかな会となりました。



懇親会の様子

2月11日(月・祝) 3日目

チェリストの集い ジュニア・チェロ・キャンプ

<9:30~11:30>
チェロ・オーケストラ リハーサル
(サントリーホール・ブルーローズ)

チェリストの集い

<12:30~13:30>
クリニックセッション
(サントリーホール・リハーサル室)

リハーサル後には、ヤマハ弦楽器技術者の望月正裕さんをお招きし、日々のチェロメンテナンスに関するレクチャーをして頂きました。

チェロ・アンサンブル・コンサート

<14:00開演>

アンサンブル・コンサートは第一部にプロの若手チェロ奏者8名(高木慶太さん、小林幸太郎さん、奥泉貴圭さん、富岡廉太郎さん、小野木遼さん、辻本玲さん、村井智さん、三井静さん)によるアンサンブル演奏、第二部にチェリストの集い参加メンバーを中心としジュニア



8名のプロ演奏の様子

やプロの演奏者も加わり約80名が奏でるチェロ・オーケストラの演奏をお届けしました。

お陰様で、アンサンブル・コンサートは満員御礼となり、会場はチェロ・オーケ参加者とお客様の熱気に溢れました。



チェロ・オーケの様子

第3回チェロの日 見聞録

取材・向後 由美さん/Webアツコルド編集部

2月9日(土)~11日(月・祝)の3日間、今年も「チェロの日」がサントリーホールにて開催された。

期間中、様々な角度からチェロを堪能することができるこの「チェロの日」は、日本チェロ協会会員有志から寄せられた「チェリストのチェリストによるチェリストのためのイベントを」という要望がきっかけとなり、2010年に始まった。その後、チェロ・コンGRESS・イン・ジャパンを挟み、今年で3回目の開催となる。

この会のメインイベントは、「チェリストの集い」参加者によるチェロ・オーケストラなのではないかと思うが、万年初心者の私は、今年も演奏で参加することができず、客席からのレポートをお届けする。

今回はブルーローズ(小ホール)を会場に、ソロ・コンサート、ジュニア・チェロ・キャンプ受講生による発表会、アンサンブル・コンサートと、多種多様なチェロ・プログラムが繰り広げられた。

ジュニア・チェロ・キャンプは小・中学生を対象としたアカデミーで、今回初の試みだ。詳しくは「ジュニア・チェロ・キャンプ 発表会」の項で触れるが、この試みにより、期間中、会場には子どもたちの姿が多く見られるようになり、これまで以上に明るく開放的な雰囲気になったように感じられた。

1日目 チェロ・ソロ・コンサートからスタート

ソロ、室内楽、オーケストラ、そして教育の場と、様々なシーンで活躍する4名のチェリストが登場。チェロの無限な可能性を感じさせる作品、チェリストなら誰もが「いつの日か」と憧れる作品、超絶技巧を駆使した作品・・・とバラエティに富んだプログラムが演奏された。

客席にはジュニア・チェロ・キャンプに参加する子どもたちの姿もあり、横坂源さんが演奏する黛敏郎・作曲「文楽」が始まると、日本の伝統的な旋律に興味津々で、食い入るように奏者を見つめる姿が印象的だった。

また、上森祥平さんが演奏するコダーイの「無伴奏チェロ・ソナタ」、林裕さんによるポッパーの作品では、今度は大人たちが、その演奏からヒントを得ようと、熱心に手元を見つめる姿があった。特にテンポの速い作品では、見事なまでに無数の音を紡ぎ出すそのテクニックを目に焼き付けようと、客席の多くが一斉に前かがみになるような場面も見られた。

上村昇さんが演奏するバッハの「無伴奏チェロ組曲」

では、重厚な響きの中に様々な感情が凝縮され、その美しい音色に、多くの聴衆がチェロを弾くことの喜びを再認識したのではないかと思う。

チェロを弾く者にとっても、これから始めたいと考えている者にとっても、憧れの対象として、ずっと心に留めておきたい演奏会になったのではないかと思う。

2日目 ジュニア・チェロ・キャンプ 発表会

初の試みとなった「ジュニア・チェロ・キャンプ」は、ソロ演奏コース、合奏コース、ビギナーズ合奏コースの3つが開講され、小学1年生から中学3年生までの計22名が受講した。

「ソロ演奏コース」では、各自が選曲した作品を用いてマンツーマンのレッスンを受講。2つの合奏コースでは、数曲の課題曲を題材にアンサンブルのレッスンを受講。演奏以外の時間には、同じ楽器を習う者同士の友好を深める機会となるようにと、一緒に昼食をとる時間などが設けられたという。チェロ人口はピアノやヴァイオリンに比べるとまだまだ少なく、身近にチェロを習っている友達がいない、という場合もある。ジュニア・チェロ・キャンプは演奏技術の向上だけではなく、歳の近い仲間との交流の場を持つことで、より一層チェロを楽しんでほしいという願いが込められている。

2日目に行われた発表会では、受講の成果が披露された。

子どもたちは、大勢の聴衆と、指導にあられた先生方とが見守る会場で、伸び伸びと演奏。その様子から、全日程が受講生にとって大変充実したものであったことが伺えた。

演奏終了後にスペシャルゲストとして、受講生よりも少し先輩にあたる、高校生から大学生の若手チェリスト4名による演奏があった。

その後、日本チェロ協会・評議員の一人でもある倉田澄子さんより、「チェロ協会賞」、「チェロの日賞」、「チェロ・フレンズ賞(=聴衆者のアンケートによって決定)」が4名の受講生に贈られた。

「チェロ協会賞」を受賞した小学2年生の北村陽さん(サン＝サーンスのチェロ協奏曲第3楽章を演奏)は力強い演奏を披露。曲の終わりには頭上に高々と弓をかざしたポーズが決まり、堂々とした小さなチェリストの演奏に大きな拍手が贈られた。

今回受講した子どもたちが、またこの「チェロの日」に参加し、その成長ぶりを見せてくれることに期待したい。

3日目 チェロ・アンサンブル・コンサート

最終日には、アンサンブル・コンサートが2部構成で行われた。

第1部は若手チェロ奏者によるアンサンブルで、普段、各々の場で活動する8名のチェリストが集結。4曲の四重奏曲と、メンバー全員での八重奏曲が1曲演奏された。

舞台配置の都合上、第2部に出演する「チェリストの集い」メンバーは、奏者の真後ろの席で演奏を聴くこととなったが、間近で聴くその迫力に圧倒されている様子だった。出演された富岡廉太郎さんにお話を伺ったところ、ポッパーの「演奏会用ボロネーズ」とヨンゲンの「チェロ4本のための2つの小品」はチェロ・アンサンブルの

王道ともいべき曲で、演奏される機会も多いとのことだが、それに比べると、フンクの「組曲」はプロの演奏会でもあまり演奏する機会がないということで、生の演奏に触れる貴重な場ともなった。

また、ポッパーの「演奏会用ボロネーズ」を演奏した高木さん、富岡さん、奥泉さん、村井さんの4名は、北海道の出身で、地元では同門だったとのこと。上京し、同じ門下同士と一緒に演奏する機会は稀だそうで、出演者も各々、思い出深い演奏会になったようだった。

最後に演奏されたピアソラの「ブエノスアイレスの四季」は、メンバーの一人である小林幸太郎さんの編曲で、出演者それぞれに見せ場があり、そのパフォーマンスに会場中が湧き、その熱気に包まれた。

休憩を挟み、第2部は「チェロの日」最後のプログラムとなる総勢80名のチェロ・オーケストラだ(コンサートミストレスは山崎伸子さん)。

トレードマークともなった真っ赤なタキシードに身を包んだ指揮者・山本祐ノ介さんが登場するやいなや会場のテンションは再び急上昇。演奏への期待感が高まった。

公募で選ばれた「チェリストの集い」参加者と、ジュニア・チェロ・キャンプの受講生、それから、第1部に出演した奏者らも加わり、プロアマ混合の大アンサンブルとなった。

後日、「チェリストの集い」参加者に感想を伺ったところ、プログラムにはヴィラ・ロボスの「ブラジル風バッハ」のような難易度の高い曲もあり、練習では苦労したとのこと。しかし、本番ではプロの奏者らの音にのって、気持ちよく演奏することができた、という声が多数寄せられた。

終演後、会場のあちこちでは、出演者と聴衆とが楽しそうに会話する姿が見受けられた。奏者として参加した者だけではなく、客席にいた愛好家やスタッフら、会場にいた全ての人々が一体となって、チェロを思う存分満喫した3日間だった。(R-293)

参加者の声

大間 透さん(R-384)

「チェロの日」に参加して

「チェロの日」のイベントは、第1回に参加された方のブログで知り、機会があれば参加したいと思っていました。今は函館に住んでいるため、東京での開催なので、練習等に参加が難しく躊躇していましたが、思い切って申し込もうと思い、チェロアンサンブルに参加するためと動機は不純なのですが同時にチェロ協会にも入会しました。チェロ歴は浅く、音楽とは無縁の生活から、単身赴任を機に以前より音色とフォルムに憧れ何故か持っていたチェロを40代後半から習い始めたのですが、1年とたたないうちに転勤、師を失ったままアマオケで迷惑をかけながら参加し、8年弱経過しているところです。今回アンサンブルに参加の申し込みをして、数か月後に楽譜と音源が送られてきたのですが、自己練習していてブラジル風バッハのリズムに乗りきれず、セカンドワルツでは左手が間に合わないなどなど、ぶっつけ本番はまずいと思い、練習にも何とか3回出席させてもらいました。練習では、山本先生がいらっしゃった回に、音色が大き

く変わりプロの方の凄さを感じました。後ろから演奏する姿を見て、ここの所ずっと悩んでいた構えから体の使い方などについてすっかりさせることが出来ました。また、成人の日の練習の時は帰りに大雪のため羽田に足止めをくらうなど、更に、懐かしい方との再会など楽しい本番とともにいい思い出が出来ました。当初、チェロの日の3日間は、本番のコンサートまで、練習づけになる

のかなと思っていましたが、プロの方・学生の方・子供とは思えない演奏をする小学生といろいろな方の演奏を聴いたり、ラーニングセッションで楽器製作者の話や取扱いなど、違った意味でチェロにどっぷりと浸かった3日間でした。企画・運営に携わられたスタッフの皆さんのご尽力のおかげで楽しく過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

タチアナ・ヴァシリエヴァ先生によるマスタークラス 開催報告

タチアナ・ヴァシリエヴァ先生

チェロ公開マスタークラス

◇開催日時：2012年10月30日（火）19:00~21:00

◇会場：サントリーホール・ブルーローズ（小ホール）

◇聴講のお客様：会員 27名 一般 16名 合計43名

2012年10月30日、タチアナ・ヴァシリエヴァさんをお招きして、日本チェロ協会主催チェロ公開マスタークラスを開催いたしました。今回は三井静さん、パク・ヒョナさん、太田陽子さんの3名に受講頂きました。アットホームな雰囲気の中、集まった聴講のお客様の中には熱心にメモを取りながら聴く人もいました。

タチアナ・ヴァシリエヴァさんは情熱的な演奏と日本文化に深く興味をお持ちの方とお聞きしておりましたが、実際にお会いするととてもパワフルでエネルギーに溢れ、笑顔の素敵な方でした。レッスン中は、受講生の音の表現力について演奏する場面を想定して演奏することや、弓の使い方などの基礎的なアドバイス、楽譜の解釈について実際に演奏を交えながらご自分の表現を提示するなど、時に大きな動作を用いてご指導されました。とても充実した2時間となりました。

以下、受講生のレポートをご紹介します。

受講レポート

三井 静さん

（桐朋学園大学音楽学部 在学）

この度はマスタークラスの受講生に選考して頂きありがとうございます。

勉強の機会を与えて下さったことを選んで頂いた先生方、チェロ協会の皆様に感謝申し上げます。

四年ほど前からこのチェロ協会主催のマスタークラスの存在を知り、毎年聴講させていただきました。今年の



講師は昨年ラ・フォル・ジュルネでブラームスの二重協奏曲を演奏したタチアナ・ヴァシリエヴァさん。そして自分が勉強している曲もブラームスの二重協奏曲ということでなんとでもレッスンを受けたく、予定を合わせ受講することが出来ました。

レッスンでは45分の短い時間ということもあり、一楽章の前半を中心に教えて頂きました。始めにピアノ伴奏と一緒に第一主題を弾いたところ「この曲を弾く上での一番の課題は何か分かりますか？」と質問されました。あれこれ考えましたが、答えは音をもれなく伝えること。

二重協奏曲を弾く上でチェロより音域の高いヴァイオリン、そして重厚なオーケストラに埋もれない音量で弾くことは至難の業なのだを教えて頂きました。

その後のレッスンはひたすら音を伝えるための技術でした。フォルテで低音を弾く時の楽器の角度、音を伝えるためのビブラート、指の押さえ方など。丁寧に出来るまで何度も我慢強く聴いてくださいました。おかげで自分の音が徐々にステップアップしていくことを感じられました。

タチアナ・ヴァシリエヴァさんがお手本で弾いて下さった音には芯が通りホールを隅々まで響き渡る音がしていて、あまりの違いに驚いてしまいました。単純に音量といっても本当に細かい注意や工夫がされており、自分がこれから音について考える上でとても参考になりました。

レッスンは結局第二主題まで弾いた所で終わってしまいましたが、終始音の出し方の追求。僕にとって足りないことの再認識とアプローチの多用さをソリストから学べたとても貴重な機会となりました。

重ねてこのレッスンを受けるに当たってお世話になったチェロ協会の皆様に感謝申し上げると共に、期待に応えるべく今回の経験を生かし精進していきたいと思いません。ありがとうございました。

朴 賢娥さん

（桐朋学園大学院大学 在学）

私が初めてタチアナさんの演奏を聞いたのは直接ではありませんがyou tubeにあるチャイコフスキーのロココ風の主題による変奏曲でした。その時、とても素晴らしい演奏をされてると思っていました。そんな素晴らしいチェリストに教えて貰えるチャンスが出来て良かったと、とても嬉しい気持ちでレッスンを受けました。

タチアナさんはそんなに大きくない身体でもとても豊



かな音を弾いていらっしやっていたその音の出し方を習いましたがすごく勉強になりました。特に、私が受けたバッハの無伴奏組曲第4番のプレリュードは音程を合わせるのが難しいことにより体が固まったりして豊かな音で演奏することが難しいのですが、なるべく力を抜いて演奏する方法をタチアナさんの弾き方を見たり説明を聞きながら学びました。そのように、力を抜くと音楽の構成を考えるのと共に豊かな音で演奏することが出来るということを実感することができました。このような素晴らしい時間を作って下さった日本チェロ協会の皆さんありがとうございました。タチアナさんに学んだことを勉強してこれからももっと頑張ってお人々に感動させるチェリストになりたいと思います。

太田 陽子さん
(サントリーホール室内楽アカデミー 在籍)

私は今回ベートーヴェンのソナタ四番で受講させていただきました。

今まであまり女性のチェリストに教えて頂く機会がなく、とても楽しみにしていた、マスタークラスでした。演奏をしていて、音のキャラクターの変化の難しさ、自分では表現していると思っても、足りていないということ、様々な音の弾き方を徹底することを学びました。

荒々しく弾きたいと思っていてもただ荒々しい音を出すのではなく、リズムや発音に対してもっと厳しく考えなければいけない、そして、その音を出すためにはどのように弾くかをもっと明白にしなければいけない、そこで、音楽のキャラクターが生かされていくのだと感じました。それはどの曲を演奏するときも一緒だと思います。

今回レッスンを受講して、学生生活とは違い、毎日を追われて一生懸命生活している中、とても刺激を受けることができ、またより一層音楽に対しての厳しさ、楽しさを追求していきたいと思います。



□ 評議委員会開催報告 □

2012年12月23日(日)に「評議委員会」が開催され、以下の議題内容をご報告いたしました。

◇開催日時：2012年12月23日(日) 18:00~19:30

◇会場：サントリーホール・M2会議室

◇出席者(9名・敬称略)：

(会長) 堤 剛 (副会長) 中島 頌、堀 了介

(評議委員) 山崎伸子、倉田澄子、毛利伯郎

(事務局) 飯田芳憲、渡邊亮、佃香菜子

◇議 題：

1. 第3回「チェロの日」準備状況報告
 - a. コンサート：出演者・名称・チケット販売状況
 - b. チェリストの集い：ラーニングセッション会場
 - c. ジュニア・チェロ・キャンプ：参加者状況
 - d. サプライズ演奏：演奏者の検討
2. その他



事務局より

○新年度会員登録更新のお願い

4月より新年度となりますので、会員の更新をお願いいたします。詳細は同封の案内をご参照ください。会費のお振込み確認後、2013年度の会員証をお送りします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記

チェロの日3日間を通して、ご出演頂いた方、先生方、ボランティアの方、ご協力頂いた沢山の方々に大変お世話になり本当にありがとうございました。今回はジュニア・チェロ・キャンプという新しい企画もあり、試行錯誤の中での開催となりましたが、子ども達から学ぶことも沢山ありとても充実した3日間となりました。

これからもチェロを通じて人との繋がりを大切に、さらなる輪が広がっていくことを願っております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。(佃)

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第39号

2013年3月31日発行

発行：日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-12-32

アーク森ビル22階 私書箱509号

電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310

発行人：堤 剛

編集：日本チェロ協会事務局

編集協力：リュウカンパニー